



死ぬってどんなことなの

生きている状態から、生きていない状態になること

死ぬというのは、生きている状態から生きていない状態になり、再び、生きている状態にはもどらないことです。

お医者さんが、人が死んだかどうかを確認するのは、

- ・心臓が止まっている
- ・呼吸運動が止まっている
- ・瞳孔（黒目の真ん中にある、丸い真っ黒いところ）が開いている

この3つのことを調べて、判定しているのです。

この3つで、なぜ死んだと判定できるのか

心臓は、全身に血液を送るはたらきをしています。心臓が止まると、血液が流れなくなり、酸素も栄養も運ばれないため、全身の細胞は次々と死んでいくこととなります。

呼吸運動は、肺がしています。肺は、空気の中から酸素を取り出すはたらきをしています。肺が動くのは、脳の中の脳幹から命令が出ているからです。肺が呼吸運動をやめると血液が酸素を全身に運ぶことができず、全身の細胞は活動できなくなります。また、瞳孔を開いたり閉じたりすることも、脳幹から命令が出ており、瞳孔が開いたままということは、脳幹が死んだということの、しるしの一つになります。

このように、この3つのことを確認すれば、死んだと判定できるのです。

（監修・保志 宏）

